

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第221回

【学生の目】

明海大学付近の住宅地の現地調査をしているときに不思議に思うものがあった。海から離れた位置に海岸堤防があることだ（写真）。海岸堤防は海からくる波から陸地を守るものだから、この海岸堤防は役割を果たしていない。

なぜこの海岸堤防があるか調べてたなごりであるとわかった。浦安市は2期にわたる埋め立てで現在の市域となった。写真の海岸堤防は第1期工事の海岸線にあり、海と陸の



朽方 勇佑
不動産学部1年

海岸堤防のなごり

境として防潮堤の役割を果たした。その後、第1期工事の外側に第2期工事を行った結果、今の姿になった。海岸堤防は地域の歴史を想起させる役割をもっている。まったく無駄なものとは言い切れない。しかし、住宅地に劣化が見られるコンクリートがむき出しになり、一定の高さで何百メートル続いていることは、街の景観を乱す原因になっている。また、子どもが上に登って遊ぶと怪我のリスクが懸念される。今後、埋め立て地が増えること、こうした海岸堤防のなごりが街に残っていくことが考えられる。海岸堤防には埋め立て地と同様、産業廃棄物やコンクリートのがれきを使用しているものもある。これから

芝生で覆って新たな活用を

をする可能性もある。いずれにしても、このまま放置しておくのが最善なのか考えてしまう。

そこで、海岸堤防を全面的に芝生で覆うことを提案したい。芝生で覆うことで景観面のやわらぎが生まれ、安全面の問題も軽減される。さらにウォーキングコースとしての利用など、堤防のなごりを保ちつつ、地域住民が活用する幅が

広がっていくのではないだろうか。芝生だけではコンクリートの劣化と共に崩壊する危険性があるが、緑の堤防（金子信孝「不動産の不思議第193回」17年7月18日号）を参考に、ところどころに木を植えれば、発育とともに根の力で強度が増すのではないだろうか。



街中にある埋立地のなごりの海岸堤防

ず、新たな活用方法を考えていくことが現在問題になっている空き家の増加の解決策の糸口ではないかと考える。

【教員のコメント】

遺産の活用が地域の個性として評価される時代だ。遺産を点、線、面に区分することの順に稀少性が高い。堤防は線形につながる貴重な遺産だ。フットパスのネットワークに有用で、若者は狭い賃貸住宅の補充に、高齢者は体力維持に活用しよう。